

國學院大學學術情報リポジトリ

多義動詞「さす」の意味分析：
あわせて、それを踏まえての日本語教育への提案

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国学院大学日本語教育研究会 公開日: 2024-11-20 キーワード (Ja): 多義動詞, 「さす」, 意味分析, プロトタイプの意味, 意味拡張, 意味のつながり キーワード (En): 作成者: 鮑, 安娜日 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001120

多義動詞「さす」の意味分析

— あわせて、それを踏まえての日本語教育への提案 —

鮑 安娜日

【キーワード】 多義動詞、「さす」、意味分析、プロトタイプの意味、意味拡張、意味のつながり

1. はじめに

「さす」には「ポケットにペンをさす」「地図をさして道を聞く」「目薬をさす」など様々な用法がある。「さす」の諸用法について、国広(1997:196)は、「さす」を七つの同音異義語として扱っている辞書があれば、二つの同音異義語と扱っている辞書もある。しかし、全部で一つの多義語を構成している。意味的には相互の語義の間にはかなりの距離が認められるが、基に一つの現象素を認めることにより、それらの語義は一つに結びつけられる」と述べている。

漢字も「指す」「差す」「刺す」「挿す」「点す」「射す」などさまざまな表記があるが、日本語として本来同じ語のつながりがある諸用法とみられ、同音異義語ではなく、多義語なのだと思われる。従って、漢字にとらわれずに、全体をとらえる必要がある。学習者にとっては初級でも「虫が人をさす」「傘をさす」などいろいろな用法があり、難しい語の一つである。多義動詞「さす」の諸用法の(1)プロトタイプの意味、(2)意味の下位区分、(3)意味のつながりは、どう捉えるのがよいか。本研究はこれらを明らかにし、日本語教育にも役立てたい。

2. 先行研究

多義動詞「さす」の意味分析としては、山田(1979)・鈴木(1994)・成田(1995)・国広(1997)・高尾(2001)がある。

山田(1979)では、「さす」は「何かを何かの中に入れる」ことであり、もし入らなければ「さす」と言えないとしている。「動かされるもの」をX、「Xが接触するもの」をYとすると以下のような構文型をとると述べている(A, Bは本稿で付けたもの。山田はBを先に掲げている)。

A : XをYに一。 B : XでYを一。

鈴木(1994)では、「さす」の次の9つの用法を選び出し、それが意味的にどれほど似ているかを母語話者に評定してもらった調査を行った(その方法の詳細は本稿では略す)。

1. 短刀で背中をさす
2. 蚊が足をさす
3. においが鼻をさす

4. その一言が胸をさす 5. 警察に仲間をさす 6. 花瓶に花をさす
7. 時計の針が12時をさす 8. 歯車に油をさす 9. 傘をさす

その結果、「1、2、3、4」「6と8」「5と7」の類似性が確認できたという。以上のうち、9「傘をさす」は孤立して同音異義語として位置づけられることが適当であろうとしている。

成田(1995)は、「さす」を中核的意味と4つの派生的意味に分けて分析し、中核的意味は「あるモノAが、あるモノ/トコロBをとおって、あるトコロCにいたる」であるとしている。

国広(1997)では、上記のように、「さす」全体で一つの多義語を構成しているとして、典型的には「団子に串をさす」のような動作をさすとしている。

高尾(2001)は、「さす」は6つのサブ・ミーニングを持つ多義的構造を成すとしている。これらのサブ・ミーニングについて、本稿では、本稿の論述を進める中で、必要に応じて注で触れる。

これらの先行研究を受けて、本稿では、まず「さす」のプロトタイプの意味を認定し、次に意味の広がり进行を明らかにし、最後に意味の關係性を解明する。「プロトタイプ」という言葉は「さす」の先行研究にはないが、本稿では、崔(2019)が「ひく」について認定している方法を参考にし、「さす」のプロトタイプを認定する。

3. 研究方法

本稿では『新明解国語辞典』『岩波国語辞典』『明鏡国語辞典』『大辞林』中の「さす」の合計72の例文(同じ例文は重複して数えない。使用頻度が非常に低い例文は除く。『大辞林』には古典の例文もあるがそれは除く)を得た上で、以下①～④の手順で意味分析を行い、⑤⑥で日本語教育での「さす」についても見る。

- ① 72の例文を、類似したものどうしをまとめ、いくつかのグループに分ける。
- ② プロトタイプの意味の認定については、国広(1997:196)が指摘した「さす」の典型的な用法を「団子に串をさす」のようなものと見るという見方に従い、72の例文について、プロトタイプの意味で使われているものを選定し、残りは拡張された意味と見る、という方法を採用。
- ③ 「さす」の拡張された意味については、72の例文のうちプロトタイプの意味以外の各グループの意味をプロトタイプの意味と比較し、類似点と相違点を認定する。
- ④ 上で認定した各意味の關係性を図で示す。
- ⑤ 日本語教科書で「さす」はどうか扱われているか、観察する。
- ⑥ 以上をもとに、日本語教育に対して提案する。

4. 「さす」の意味分析

4-1 「さす」のプロトタイプの意味

国広(1997:196)は「さす」の典型的な用法は「団子に串をさす」のようなものと見ている。本研究でもこれをもとに、72の例文からまずこのような例を拾い、プロトタイプの意味を抽出する。本稿では「さす」のプロトタイプの意味の認定にあたって次のような基準を設定した。

1) 道具が鋭い先端を持つ細長い物であること。

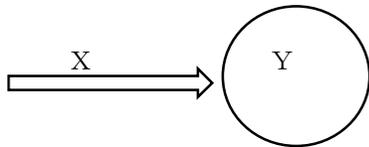
2) 道具をまっすぐに動かして何かの内部に入れること。

1)と2)については山田(1979:221)を参考にした。山田(1979:221)は、「さす」について、動かされるものが棒状の物であり、しばしばそれは鋭い先端を持つとする。また、「さす」は「何かを何かの中に入れる」ことであり、もし入らなければ「さす」と言えないとしている。その上で、「動かされるもの」をX、「Xが接触するもの」をYとすると、「さす」は、

A: XをYに一。

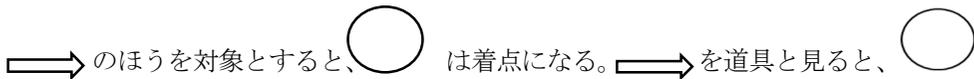
B: XでYを一。

のような構文型をとるとしている。以下の図は、これをもとに本研究で示してみたものである。



A: 「XをYに一」の場合 …… X=対象、 Y=着点

B: 「XでYを一」の場合 …… X=道具、 Y=対象



が対象になる。

この考え方によって、72の例文のうち次の(1)～(17)をプロトタイプの意味と認定した。

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| (1)大根に箸をさす(明鏡) | (2)腕に注射針をさす(岩波) |
| (3)サンショウの枝を地にさす(新明解) | (4)団子を串にさす(大辞林) |
| (5)アユを串にさして焼く(明鏡) | (6)壁に鋏をさしてカレンダーをとめる(明鏡) |
| (7)菊の茎を土にさして根づかせる(明鏡) | (8)サツキをさして増やす(大辞林) |
| (9)とげをさす(新明解) | (10)短刀で人をさす(大辞林) |
| (11)針でさす(新明解) | (12)毒虫がさす(新明解) |
| (13)蜂にさされる(大辞林) | (14)釘をさしておく(新明解) |
| (15)とどめをさす(明鏡) | (16)雑巾をさす(明鏡) |
| (17)畳をさす(新明解) | |

以上をAとBに分けて示す。

A: 「XをYに一」(「YにXを一」も含む)の型に当てはまる例は、(1)～(7)である。(8)(9)は、Aの「Yに」が省略されたものと見られる。

B: 「XでYを一」(「Yを一」がないものも含む)の型に当てはまるのは例(10)であり、例(11)は「Yを」の部分が省略されたものと見られる。

(12)「毒虫がさす」については、そのもともとの型を「毒虫が針で人をさす」と見れば、これはB型に当てはまるが、「毒虫が針を人にさす」と見れば、A型とも見られる。(13)(の能動文

「蜂がさす」)も同様である。なお、(10)～(13)のように着点が<人間>の場合、一般に害を与えることになるとの指摘が山田(1979:221)にある。

(1)～(12)各例から、「さす」の最も基本的な動作を表す文の条件は、AまたはBの文型(格関係)とともに、動作主が鋭い先端を持つ棒状の物をまっすぐに動かして他の物の内部に入れることだと改めて確認できるが、また、どの例でも道具を着点に入れることによって着点に穴が開くという結果が生じている。

(14)(15)は比喩的なものであるが、「さす」の用法としてはプロトタイプである。型から見るとA型の「Yに」が省略されたパターンに当てはまる。

(16)「雑巾をさす」は雑巾に針をさすということで、動作主が鋭い先端を持つ棒状の物をまっすぐに動かして他の物の内部に入れるという基準に当てはまるので、プロトタイプの意味と認定した。(17)も同じである。(16)(17)はB型で「Xで」がないものと見ることができる。

プロトタイプの意味を、下記に意味<0>として記述しておく(「着点が<人間>である場合、一般に害を与えることになる」という記述は、プロトタイプの意味としては記さずにおく)。

意味<0>:

動作主が鋭い先端を持つ棒状の物をまっすぐに動かして他のものの内部に入れる。

ここで示す意味<0>は高尾(2001)が意味1としているものに対応する¹。

4-2 「さす」の拡張された意味

本節では「さす」の拡張された意味の記述を行う。

4-2-1 意味<1>

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| (18)花瓶に花をさす(明鏡) | (19)鉛筆を筆立てにさす(明鏡) |
| (20)状差しに手紙をさす(明鏡) | (21)かんざしを髪にさす(新明解) |
| (22)周囲は小枝をさして囲ってあった(明鏡) | (23)大刀を腰にさす(大辞林) |
| (24)腰に笛をさす(新明解) | (25)左をさす(明鏡) |

(18)～(25)はすべて上記の構文型A「XをYに―」(「YにXを―」も含む)に当てはまる。動作主が細長い物をまっすぐに動かして他のものの内部に入れるという点では意味<0>と共通しているが、意味<0>では「さす」という動作によって着点に穴を開ける結果をもたらす(しばしばそれが目的である)のに対し、意味<1>ではもともと穴があいているものにさすことによって、道具を固定するのが目的である。ここでは道具が鋭い先端を持つとは限らない。

(25)は相撲で相手の脇に自分の左腕を入れ有利な状態を作ろうとすることを言う。自分の左腕を「細長いもの」、相手の脇を「他の物の内部」と見れば、(25)もこのタイプに該当する。

意味<0>と意味<1>は動作主が細長い物をまっすぐに動かして他のものの内部に入れると

¹ 高尾(2001)の意味1:一次元的な延長をもつ物体を直線的に移動させてその先端部を固体の対象物の内部に入れ(対象物の構成を破壊す)る。

いう点で似ているため、意味<1>は意味<0>からの拡張した意味だと考えられる。

意味<1>:

動作主が細長い物をまっすぐに動かして他のものの内部にはさみ入れて落ちないようにする。

意味<0>と意味<1>の共通点: どちらも細長い物を他のものの内部に入れる。

意味<0>と意味<1>の相違点: 目的が違う。意味<0>は穴を開ける。意味<1>は固定する。

意味<1' >

(26) かんぬきをさす(明鏡)

(27) 戸をさす(明鏡)

(28) 通用門をさす(新明解)

「かんぬき」は、門の扉が開かないようにする横木を言う(図1)。(26)は、図のように、横木を左右の扉に跨るように、横木を固定する留め具の空間を通すことである。ここから、(27)(28)のように「さす」に「ロックする」意味が生じたと考えられる。(26)は意味<1>とも言えるが、ここから派生した「開かないようにする」意味を<1' >としておきたい。ここでいう「開かないようにする」というのは意味<1>の「落ちないようにする」に由来すると考えられる。



図1 かんぬきをさす

意味<1' >:

動作主が通用門、戸などを開かないように横木を跨るように通す。

意味<1>と意味<1' >の共通点: 何かを固定する。

意味<1>と意味<1' >の相違点: <1>は落ちないようにする。<1' >は開かないようにする²。

4-2-2 意味<2>

(29) 水をさす(新明解)

(30) 油をさす(岩波)

(31) 茶をさす(新明解)

(32) 目薬をさす(明鏡)

(29)は比喩的に使われることもあるが、ここでは、実際に水を注入するという基本的な意味のほうを問題にする。(29)～(32)は、すべて、構文型Aの「XをYにー」(「YにXをー」も含

² なお、本稿の意味<1>と<1' >については、高尾(2001)では触れられていない。

む)の「Yに」が省略されたものと見られる。以上の例文からわかるように、ここでは移動物が液体でなければならない。高尾(2001)も指摘する通り、液体を何かの容器に入れる時、液体が筋状の形になって容器に入る。したがって、この意味も「動作主が細長い物をまっすぐに動かして他のものの内部に入れる」という点では意味<0>と類似している。しかし、今までの「穴を開ける・固定する」という目的と違って、この用法は液体を入れ加えることが目的である。これを意味<2>として示す(これは高尾(2001)の意味2に対応する³⁾。

意味<2>:

動作主が液体を筋状に容器などの中に入れ加える。

意味<0>と意味<2>の共通点: 動作主が細長い物をまっすぐに動かして他のものの内部に入れる。

意味<0>と意味<2>の相違点: <0>は棒状の物で穴を開ける。<2>は筋状の液体を注入する。

4-2-3 意味<3>

- (33) 欲しい品物を指でさす(大辞林) (34) 駅のほうをさして教える(大辞林)
(35) ここが大切だと、本のその箇所をさす(岩波) (36) 時計の針が正午をさしている(明鏡)
(37) 西をさして進む(明鏡) (38) 司会者は私をさして質問を促した(明鏡)
(39) 先生が生徒をさす(岩波) (40) この語のさす意味(岩波)
(41) 下線部の「それ」は何をさしているか答えよ(明鏡)
(42) 現代をさして「情報化社会」と呼ぶ(明鏡)
(43) あの非難は明らかに我が党をさしてなされたものだ(大辞林)
(44) 東はこっちだと指をさして示す(明鏡)
(45) 後ろ指をさされる(大辞林)

(33)～(45)は一般に「(Xで)Yをさす」構文型を取る。プロトタイプの意味はA型・B型2つの文型で表されたが、意味<3>はB型でのみ使われる。ここで示すXは指など(向きをさす道具)、Yが向ける先である。「(Xで)Yをさす」の型に当てはまるのは例(33)～(43)だが、(44)(45)のように「Xをさす」もある。

これらの例文では、動作主が長い細いもの的一端をまっすぐに動かして方向を示す、あるいはその方向にある人や物に向けるという意味を表す。ここでは、「長い細いもの一端をまっすぐに動かす」という面では意味<0>と共通点が見られる。しかし、道具の先端部が着点に入るわけではなく、そこで止まるという点では意味<0>と異なる。また(40)～(45)はその方向やその方向にある人や物をさすだけでなく、その方向にある人や物を〈注意を向ける対象〉とするという意味まで含む。以上を意味<3>として示す(高尾(2001)の意味5に対応する⁴⁾。

意味<3>:

動作主が長い細いもの先端部をある方向やその方向にある人・物に向ける。また、その方向

³⁾ 高尾(2001)の意味2: 少量の液体を筋状に対象物の内部に移す。

⁴⁾ 高尾(2001)の意味5: 一元的な延長を持つものの先端部を対象物の方向に向ける。

にある人や物を、注意を向ける対象とする。

意味<0>と意味<3>の共通点：長い細いものの先端をまっすぐに示してターゲットを明らかにする。

意味<0>と意味<3>の相違点：<0>は着点に入れる。<3>は着点を示す。

意味<3'>：

(46) 将棋をさす(明鏡)

(47) さす手引く手(明鏡)

(48) 杯をさす(新明解)

(49) さしつさされつして酒を飲む(明鏡)

(46)～(49)は、特定の行為に慣用句的に使っているが、「さす」の意を抽出しようとするなら、指や手を前に出して物を相手のほうに進めるなどすること、といえるであろうか。意味<3>は問題にする物または方向へ、指や手を前に出す意味があるため、<3'>はこれに由来すると考えられる⁵。

意味<3'>：

指や手を前に出して、物を相手のほうに進める（特定の行為に慣用句的に使う）。

意味<3>と意味<3'>の共通点：指や手などを前に出す。

意味<3>と意味<3'>の相違点：<3>は指や手などを前に出して何かに向ける。<3'>はそれから派生した、特定の行為について慣用句的に使う用法で、「何かに向ける」意は欠いている。

4-2-4 意味<4>

(50) 鳥をさす(明鏡)

(51) 先行馬をさす(明鏡)

(52) 一塁ランナーを牽制球でさす(明鏡)

(53) 犯人をさす(岩波)

(54) 違反建築でさされる(大辞林)

(50)は「もちぎおで鳥を捕える」、(51)は「競馬で先行する馬を追い抜く」、(52)は「野球でランナーをアウトにする」、(53) (54)は「犯人を密告する・指摘する」意である((53)は意味<3>の意味で使われることもあるが、ここでは「密告する」の使い方のほうを問題にする)。これらはどれも、動作主が何かをすることによって、対象に害を与えることを意味する。意味<0>では動作主が鋭い先端を持つ棒状の物をまっすぐに動かして他のものの内部に入れることによって着点に穴があく結果が生じるが、山田(1979)によると、着点が<人間>の場合、一般に害を与えることになる。上の各例はその比喩的な使い方と見られる。以上を意味<4>として示す⁶。

意味<4>：

動作主が何かをすることによって着点に害を与えることを比喩的に述べる。

意味<0>と意味<4>の共通点：害を与える。

意味<0>と意味<4>の相違点：<0>は物理的に害を与えるが、<4>は物理的にはない形

⁵ ここで示す意味<3'>について高尾(2001)では触れられていない。

⁶ ここで示す意味<4>について高尾(2001)では触れられていない。

で害を与える。

4-2-5 意味<5>

- (55) 日がさす(岩波) (56) 窓から朝の光がさす(明鏡)
(57) 後光がさす(大辞林) (58) 景気に陰りがさす(明鏡)
(59) 木立ちの間に人影がさす(大辞林)

ここで扱う「さす」は、これまで見てきた「さす」と異なり、自動詞の「さす」である。助詞も今までの「を・に・で」ではなく「が」が使われる。主語になるのは動作主ではなくて、光線であるため、意味<0>と異なるが、光線は何かに入るとき筋状の形になって入る。したがって、筋状の光線先端部分がまっすぐにどこかに入るという面では、意味<0>と類似点があると考えられる。以上を意味<5>として示す。この意味<5>は高尾(2001)の意味3に対応する⁷。

意味<5>:

光線の先端部が何かに入ることによって、その空間内部が明るくなる／色調が表れる。
意味<0>と意味<5>の共通点: 棒状の物がまっすぐに他のものの内部に入る。
意味<0>と意味<5>の相違点: <0>の主語は人間、<5>の主語は光線である。

意味<5'>

- (60) 頬に赤みがさす(明鏡) (61) 血の気がさしてくる(大辞林)

意味<5>も意味<5'>も動作主の行為ではない現象を表す。意味<5>と意味<5'>の関連性は明らかである。それは、色が表れることである。ゆえに、意味<5'>は意味<5>の派生した意味だと見られる。ここで扱う意味<5'>は高尾(2001)の意味4に対応する⁸。

意味<5'>:

身体部位に色調が表れる。
意味<5>と意味<5'>の共通点: 色の変化が表れる。
意味<5>と意味<5'>の相違点: <5>は空間内に、<5'>は身体部位に色が表れる。

4-2-6 意味<6>

- (62) 眠気がさす(明鏡) (63) 魔がさす(明鏡)
(64) 嫌気がさす(大辞林) (65) 臭気が鼻をさす(明鏡)
(66) 寒気が肌をさす(大辞林) (67) 異様なにおいが鼻をさす(大辞林)

これらは、人間の感覚器官や心に刺激を与える、否定的感情・感覚が表れるという意である。意味<5>で述したように「色調が表れる」という意味があるため、意味<6>は<5>の色調が

⁷ 高尾(2001)の意味3: 光線の先端部分が三次元的空間内部に進入する。そして、その光の反射により、空間内部の色調が変化する。

⁸ 高尾(2001)の意味4: 身体部分の色調がごくわずか変化する。

表れることに由来すると推測される。意味<6>は高尾(2001)の意味6に対応する⁹。

意味<6>:

人間の感覚器官や心に刺激を与える、マイナスな感情・感覚が表れる。

意味<5>と意味<6>の共通点:何かを表れる。

意味<5>と意味<6>の相違点: 意味<5>は色調が表れるが、意味<6>は感覚器官や心にマイナスな感情・感覚が表れる。

4-2-7 意味<7>

(68) 傘をさす(明鏡)

(69) 日傘をさす(大辞林)

(68)と(69)は以上で挙げた意味<0>~意味<6>とはっきりした関連性は見出しにくい、
「さす」を含む複合動詞「さし出す」「さしあげる」の「さす」の「前方に掲げ持つ」からの由来ではないかと考えられる¹⁰。

4-2-8 その他

(70) 口紅をさす(大辞林)

(71) 朱をさす(新明解)

(72) 紅をさす(新明解)

(70)~(72)は「添える」のような意味で、意味<2>の「注入する」とつながるかと思われ
るが、液体の注入ではないので、「その他」としておく。

以上をまとめると、「さす」にはプロトタイプの意味を含めて大きく7つの意味が認定され
た(意味<7>と「その他」はとりあえず外しておく)。これらの相互関係を図2に示す。

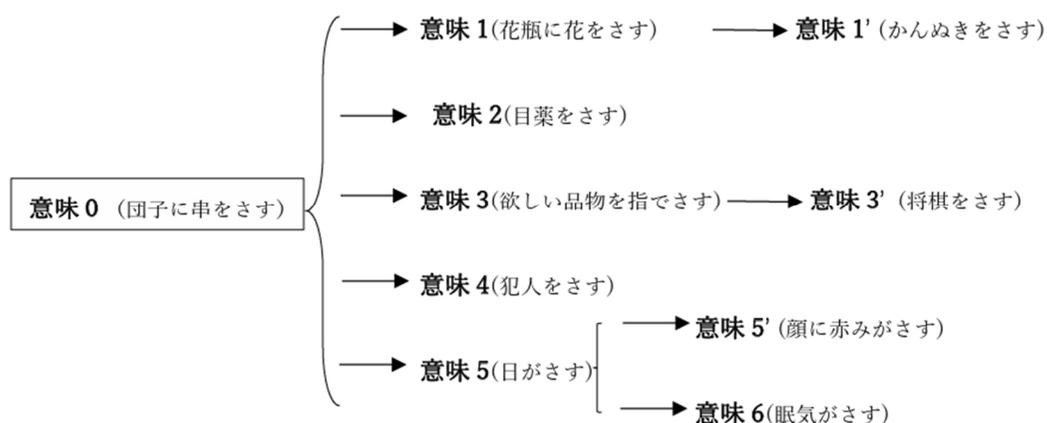


図2 「さす」のさまざまな意味の関係

⁹ 高尾(2001)の意味6: 意図せずわずかの程度否定的な感情、感覚になる。

¹⁰ ここで示す意味<7>について高尾(2001)では触られていない。

以上のように、「さす」のプロトタイプの意味＝意味<0>から、意味<1>・意味<2>・意味<3>・意味<4>・意味<5>ができたとみることができる。さらに、意味<1>から意味<1'>ができ、意味<3>から意味<3'>、意味<5>から意味<5'>と意味<6>ができたと考えられる。

高尾(2001:30)は、「さす」が6つのサブ・ミーニングを持つ多義的構造を成すとし、「それらのサブ・ミーニングは多元的に他のサブ・ミーニングと意味的な関連を持ち、複雑な意味のネットワークを構成」するとして、サブ・ミーニングの相互関係を表1のように示した。だが、高尾の分析では、「さす」のプロトタイプの意味、意味の拡張、意味の関係がはっきり捉えられているとは言えないため(この表の細部についての検討・論評は、ここでは行わないが)、本稿では新たな構想で「さす」の多義関係を捉えたものである。

表1 高尾(2001)の立てた意味1～意味6の関係についての、高尾の整理

	意味1	意味2	意味3	意味4	意味5	意味6
yの一次元性	+	+	+		+	
zの三次元	+		+			
yの固体制	+	+			+	
zの被影響性	+		+		+	
zの固体性	+		+	+		
移動の抽象性			+	+	+	+
zの色の変化			+	+		
yの少量性	+	+	+	+		+

5. 日本語教科書における「さす」

日本語教育での「さす」の使用実態を明らかにするために、日本語教科書中の「さす」の使われ方とあらわれる課を調査した。

5-1 調査対象

対象としたのは、次の初級教科書14種(刊行順)である。[]内は本稿で用いる略称である。

- ・『日本語I』東京外国語大学附属日本語学校教材開発研究協議会、凡人社、1979 [東外(旧)]
- ・『日本語初歩』鈴木忍・川瀬生郎執筆、国際交流基金、1981 [初歩]
- ・『現代日本語(改訂版)』亜細亜大学留学生別科、1981 [亜大]
- ・『初級日本語』東京外国語大学附属日本語学校、三省堂、1990 / 東京外国語大学留学生日本語教育センター、凡人社、1994 再刊 [東外]
- ・*Situational Functional Japanese I・II・III* 筑波ランゲージグループ、凡人社、I:1991 / II・III:1992 [SFJ]

- ・『日本語コース初級』文教大学留学生別科教材研究会、凡人社、1995 [文教]
- ・『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク、1998 [みんな]
- ・『初級日本語げんきⅠ・Ⅱ』坂野永理他、ジャパンタイムズ、1999 [げんき]
- ・『日本語初級1・2 大地』山崎佳子他、スリーエーネットワーク、1:2008 /2:2009 [大地]
- ・『できる日本語初級』嶋田和子監修、アルク、2011 [できる]
- ・『TRY! トライ日本語能力試験 N5/ N4 文法から伸ばす日本語』アスク、2014 [トライ]
- ・『つなぐ日本語初級Ⅰ・Ⅱ』アスク、2017 [つなぐ]
- ・『やさしい日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』Jリサーチ、2019 [やさしい]
- ・『初級日本語 とびらⅠ・Ⅱ』くろしお出版、Ⅰ:2021/Ⅱ:2022 [とびら]

5-2 調査結果

次表は、以上各教科書における「さす」の使われ方と、出現する課を示す。

表2 日本語教科書における「さす」

教科書		例文	課
東外(旧)		①目をあけて目薬をさす。 ②花は花瓶にさしてあります。 ③雨が降っているのです、傘をさしています。 ④私は虫に顔をさされました。	①12 課 ②16 課 ③27 課 ④31 課
初歩		①傘をさして歩いています。 ②花は花瓶にさしてあります。	①16 課 ②18 課
亜大		わたしは蚊に腕をさされました。	26 課
東外		傘をささないで歩いています。	20 課
SFJ		かにさされました。	17 課
文教		なし	
みんな	Ⅱ	傘をさして/ささないで出かけます	34 課
げんき	Ⅱ	虫に刺された	21 課
大地	2	①蚊が刺す ②傘をさす	①36 課 ②39 課
できる		なし	
トライ	N4	雨の日は(かさをさして)学校へ行きます。	2(1) 課
つなぐ		なし	
やさしい		なし	
とびら	Ⅱ	①かが刺す ②傘をさす	①36 課 ②39 課

「さす」が出ていた教科書は 10 種であった（「文教」「できる」「つなぐ」「やさしい」4 種で

「さす」が出ていなかった)。初級段階の日本語教科書で最も多く使われているのは「虫がさす」の「さす」(本稿の分類では意味<0>。多くは受身で出現)、次いで「傘をさす」の「さす」(本稿の分類で意味<7>)である。また、出現する頻度は意味<0>と意味<7>に比べて低い、「花をさす」(本稿の分類では<1>)「目薬をさす」の「さす」(本稿の分類では<2>)も教科書によっては登場する。

なお、教科書以外の資料として、初級学習者用の学習辞典 *Basic Japanese-English Dictionary* (国際交流基金, 1986)を見ると、

- ・「刺す」として、①「針で指を刺す」、②「はちに刺される」(以上、本稿の意味<0>)
- ・「指す」として、①「黒板に書いた字を一つ一つ指す」「時計の針が12時を指す」、②「先生に指される」(以上、本稿の意味<3>)
- ・「さす」として、①「目薬をさす」「やかんに水をさす」「油をさす」(以上、本稿の意味<2>)、②「かさをさす」(本稿の意味<7>)

が載っていたが、本稿の意味<1><5><6>は載っていなかった。

5-3 日本語教育への提案

学習者には初級段階で意味<0>、意味<7>および意味<3>を優先的に教えるべきである。その他の用法の中でも、意味<1>・意味<2>・意味<5>は、理解語としても使用語としても身につけてもらいたいと思う。他の意味<1'>・意味<3'>・意味<4>・意味<5'>・意味<6>は、学習者のレベルに応じて、という扱いでよいと考える。

以下、初級学習者に教える際に相応しい例文、中上級学習者に教える際に相応しい例文に分けて、具体的に示してみる。

[初級]

意味<0>:

- ・A: 「XをYに一」(「YにXを一」も含む), B: 「XでYを一」(「Yを一」がないものも含む)の2つの構文型に当てはまる例:

箸を大根にさす/箸で大根をさす、串を団子にさす/串で団子をさす、
針を布にさす/針で布をさす

- ・A, Bのうち1つの型しか言わないのが普通である例:

(腕に)注射の針をさす、指にとげをさす(とげがささる)、
虫がさす(虫にさされる)、
短刀で人をさす

意味<1>:

花瓶に花をさす、刀を腰にさす、カードを差し込み口にさす、プラグをコンセントにさす、鍵を鍵穴にさす、傘を傘立てにさす、鉛筆を筆立てにさす

意味<2>:

機械に油をさす、歯車に油をさす、目薬をさす

意味<3>:

ポスターをさして説明する、地図をさして道を教える、欲しい品物を指でさす、「駅はあちらです」と手をさして示す

先生はリーさんをさして答えさせた、授業中に先生にさされた、時計の針が正午をさした、西をさして行く

意味<7>:

傘をさす

[中上級 (○は中級, 無印は上級。上級は上級前半程度を考える)]

意味<0>:

釘をさす、とどめをさす。(比喩的な用法だが、上級学習者は身につけてもよからう)

意味<1>:

かんざしを髪にさす、○状差しに手紙をさす

意味<1'>:

かんぬきをさす

意味<2>:

水をさす。(比喩的な用法だが、上級学習者は身につけてもよからう)

意味<3'>:

○将棋をさす

意味<4>:

一塁ランナーを牽制球でさす

意味<5>:

○窓から日がさす、○部屋に光がさす

意味<6>:

眠気がさす、魔がさす、嫌気がさす、異様なにおいが鼻をさす

6. おわりに

本稿では、初級段階の学習者にとって難しい語の一つである多義動詞「さす」について、(1)プロトタイプの意味は何か、(2)意味の下位区分はどう立てるのがよいか、(3)意味のつながりはどう捉えるのがよいか、という3つの課題を設定し、考察を行った。

その結果、以下のことが明らかになった。(1)「さす」のプロトタイプの意味は「動作主が鋭い先端を持つ棒状の物をまっすぐに動かして他の物の内部に入れる(ことで結果が着点に穴があく)」と見るのがよい。(2)「さす」の意味はプロトタイプを含めて大きく7つ立てられた。(3)意味用法の相互関係は図2で示した通り、意味<0>から意味<1>・意味<2>・意味<3>・意味<4>・意味<5>が派生したと考えられる。さらに、意味<1>から意味<1'>、意味<3>から意味<3'>、意味<5>から意味<5'>と意味<6>が派生した。意味<7>は使用頻度が高い用法だが、上で述べた意味<0>から意味<6>とはっきりした関連性は見えなかった。

日本語教育では、学習者に初級段階で意味<0>、意味<7>および意味<3>を優先して教えるべきである。その他の用法の中でも、意味<1>・意味<2>・意味<5>は、理解語としても使用語としても身につけてもらうのが妥当かと思われるが、他の意味<1'>・意味<3'>・意味<4>・意味<5'>・意味<6>は、学習者のレベルに応じて、という扱いでよいのではないかと思われる。

参考文献

- 国広哲弥(1997)『理想的な国語辞典』大修館書店。
崔 暁文(2019)「認知意味論の観点からみた多義動詞「ひく」の意味記述の精緻化」『人間文化創成科学論叢』22, お茶の水女子大学大学院, 67-76。
成田徹男(1995)「多義語「さす」とその周辺」『日本語研究』5, 首都大学東京, 11-20。
鈴木敏昭(1994)「多義語の構造—サス, オチル, ヒクの場合」『富山大学人文学部紀要』20, 23-43。
高尾享幸(2001)「多義語の意味分析の方法に関する覚え書き: 動詞「さす」の分析を事例に」『東洋女子短期大学紀要』33, 15-31。
山田進(1979)「ツク・サス・ツツク」柴田武・國廣哲彌・長嶋善郎・山田進・浅野百合子『ことばの意味2 辞書に書いてないこと』平凡社, 220-229。

調査対象とした辞書

- 北原保雄(編)(2010)『明鏡国語辞典 第三版』大修館書店。
松村明・三省堂編修所(編)(2019)『大辞林 第四版』三省堂。
西尾実・岩淵悦太郎他(編)(2019)『岩波国語辞典 第8版』岩波書店。
山田忠雄・柴田武他(編)(2017)『新明解国語辞典 第八版』三省堂。